

留学生の声エッセイ 別科 リュウユウシン（劉 祐辰）

「夢の実現と前進」

皆さん、初めまして！台湾から城西大学の留学生として日本に来ました、淡江大学日本語学科の三年生、劉祐辰と申します。

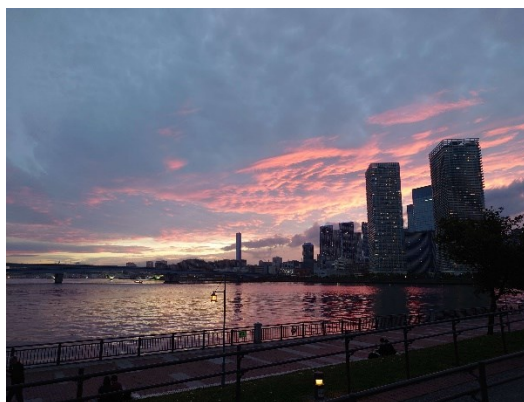
子供の頃から日本の物事に心惹かれていたので、日本で留学や生活することはずっと僕の夢でした。それに、昔よく家族と一緒に日本のあちこちに旅行したので、僕にとって、日本はまるでもう一つの故郷のような国です。だからこそ、日本に留学できて、僕はとても嬉しく思っています。

もう何回も日本に遊びに来たので、留学生活は僕にとってはもう十分に慣れているはずなのに、初めて家族から離れて暮らすのはどうしても慣れなくて、自分がやらなければならない事がいっぱい増えて、言葉も通じない時も結構あって、誰にも頼れないことは想像より辛かったです。自分もあまり自信がない人だから、最初の頃は本当に毎日不安の中で暮らしていました。

でも、JIST や国際教育センターが開催した様々なイベントと優しい先輩たちのおかげで、毎日は凄く楽しくなりました。川越での和服体験、秩父長瀬への学外文化研修、クリスマスパーティーと小学校での文化紹介。それらのイベントは私にとって、とても大事な思い出になりました。そしていつの間にか、最初の憂鬱な気分は一瞬で飛ばされました。



お台場の公園



夕方の横浜

それに、休みの間、日本に来てくれた家族のことも非常にありがたく思っています。心配して日本に来た両親のこと、悩みの相談にのってくれた姉のことも、僕を支える力になりました。彼らを心配させないように、自分はしっかりしなければならない、だからもう一度立ち上がることを決めました。



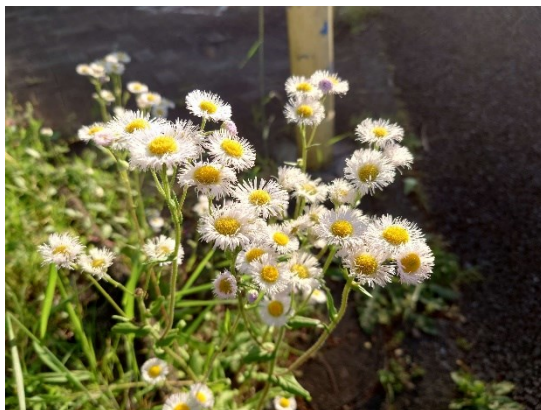
両親と江ノ島に行きました



姉さんと一緒に東京で遊びました

別科での授業もとても楽しいです。授業の内容はN2の内容なので、台湾で受けた授業とはあまり変わらないのですが、より明るい雰囲気です。先生方は親切で、いつも優しく自分からの質問に答えてくれるので、例えば授業時間は台湾より長くても、全然疲れません。自分も先生たちの優しい言葉から、自信と勇気をもらいました。

寮の近くのヒメジョオン



学校の生活以外で、一番目を離すことができないのは豊かな自然の景色のことです。自分は生き物と花が好きなのですが、家は都市部にあるので、台湾での生活ではあまり見ることはできません。でも留学している時は色んなところで花を満喫する事や見たことない昆虫を観察する事ができます。寮の近くとか、学校に行く

ときとか、様々なところで花と虫を見ることができるから、とても嬉しいです。



学校のツツジ



学校のツバキ

一年の時間は思ったより早く過ぎました、気付いたら、もう3ヶ月しか残っていません。卒業のためにはしょうがないのですが、本当はもっとここに残りたいです。だからこれ以上後悔を残さないために、僕は残りの毎日は全部楽しく過ごしたいと思います。帰る前にはもっと楽しい思い出を作りたい、もっと日本の景色を目に焼き付けたい、もっと色々な人たちと話したいです。日本に留学したこの9か月は僕にとって掛け替えのない時間でした。きっとこれからの日々も同じように思うでしょう。

これからの日々を楽しく過ごせますように、残った3か月も宜しくお願いします。

(2023年5月)